

前橋市立前橋高等学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)

評価対象	羅 針 盤		達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①地域活性化プロジェクト「めぶく」に主体的に取り組んだと感じている生徒の割合が75%以上である。	A	A	A	学校生活全体を通じて生徒が主体的に活動し、自分の役割を認識することで、自己有用感を得られるような取組を図った。習熟度別クラスにおける到達目標を明確にし、生徒が取り組むべき課題を自覚させることで学習意欲を喚起することができた。総合的な探究の時間に取り組んだ地域活性化プロジェクト「めぶく」において主体的・対話的な学習活動を展開し、個々の生徒が達成感を得られる機会を設けることができた。	内部評価と比較して外部アンケートの評価が低いので、指導内容の見直しを行う必要がある。主体的・対話的な学習活動を積極的に取り入れる努力を継続するとともに、個々の生徒への評価方法や還元の方法を工夫し、学習成果を認識できるような指導を行う必要がある。	生徒の自己有用感を高める活動についての企画・立案の工夫を継続していく。生徒の能力に応じた教材の精選と授業展開の工夫についてさらに検討する。生徒が主体的に取り組める課題の設定や、協働学習による考察の深化、さらに情報を発信できる授業展開を目指す。
		②習熟度別で履修することにより生徒の75%以上が学力が向上したと感じている。	A	A	A			
		③少人数制で履修することにより、生徒の75%以上が思考・判断・表現力が向上したと感じている。	A	A	A			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導ですか。	④学習に対する達成感や満足感をもっている生徒が80%以上である。	A	B	B	学力の定着度を確保するための振り返りや小テスト、自己評価や他者評価などを積極的に行い、生徒自身に学習成果を認識させるとともに、つまづきを分析させ、個に応じた学習方法を提示するなど理解を深めるための指導を行うことができた。また、生徒が主体的に考え、共働的に学び合える授業を展開することで、学びに向かう力の向上を実感させることができた。	進路実現のために必要な学習時間が十分に確保できているかについては、外部アンケートの評価が高く、自己評価とのずれが見られる。面談等を通して認識の違いの原因について確認する必要がある。また、効果的な指導方法を教員相互で共有することで、進路や学習に対する意識を高めさせる必要がある。	到達度テストや実力テストなどを活用することで、客観的な基準をもとに成長を実感できる指導を継続する。評価方法を工夫することで、つまづきの分析と理解の深化のための具体的方策を意識させることで、学びに向かう力や意欲を向上させる指導をしていく。
		⑤「授業がわかりやすい」と評価している生徒が80%以上である。	A	A	A			
	3 生徒は確かな学力を身につけていますか。	⑥「授業を通して学力がついた」と評価している生徒が70%以上である。	A	A	A			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に4回程度実施している。(80%以上)	A	A	A	生徒情報について、職員会議や学年会議において職員間の連携を取ることができ、諸問題について早期に対応することができた。学校いじめ防止基本方針の周知も生徒と保護者に行き届くようになり、悩みや相談事についても教育相談と連携を図り対応することができた。ゴミの分別について、周知徹底することがなかなかできなかったが、係を中心に分別指導が行き届くようになり、美化活動の意識も向上することができた。	生徒指導上の大きな問題はなかったが、交通事故防止については、ヘルメット着用とともに徐々に意識が高まっている。事故件数も昨年より減少し、今後も継続して指導していきたい。いじめ問題についても、早期発見早期対応を心掛け、全体での研修を重ね、職員全体で取り組んでいく必要がある。	情報モラル関連といじめ対策についての指導の難しさがあり、どのように指導し対策していくかが今後の課題である。生徒一人ひとりがICT関連について正しい理解をし、便利な機能を有効活用できるようにしていきたい。また進路指導部と連携し、学習指導や個々のスキルアップ向上に生かすことを目指していく。
		⑨登校時指導(朝学習も含め)を週3回以上実施している。(80%以上)	A	A	A			
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩学校は「学校いじめ防止基本方針」について、生徒に説明していると認識している生徒が80%以上である。	A	A	A			
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪学校と家庭の連携の中で、怠惰な遅刻がないと自覚している生徒が9.0%以上である。	A	A	A	ICT機器導入元年として、スタディサプリやClassi NOTEを効果的に活用した。地域活性化プロジェクト「めぶく」を通して、市前生に身につけて欲しい6つの力を伸ばす取り組みを充実させた。赤城青年の家の「地域探究プロジェクト」では、関東・甲信越ブロックにおいて最優秀賞(個人)を受賞し、全国ステージにおいて金賞を受賞した。学習指導においては、進路実現計画「さ霧晴れて」に基づいて、二者面談を中心とした個別指導を適切に実施した。	地域活性化プロジェクト「めぶく」や特別活動での取組を生かし、生徒への声かけを充実させた。保護者はもちろん、地域の方々にも開かれた学校になるため、情報提供に努める進路通信をさらに充実させる必要がある。	ICTの活用については、今後更に有効に活用するため、職員研修を充実させる。地域活性化プロジェクト「めぶく」の取組については、興味ある学びを見つけられる指導の充実を図るとともに、3年次の進路実現に積極的に生かしていく。	
		⑫ゴミを分別し、学校内の美化を心がけている生徒が80%以上である。	B	A				B
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬「自己の生き方」と「将来の職業との関連について考えている生徒が80%以上である。	B	B	B	Web ページを今年度大幅にリニューアルし、生徒が活動している様子を増やすなどして、内容を充実させるように努めてきた。行事関連の連絡だけでなく、新型コロナ関連の連絡もメールやclassiなどを通じて確実に届くことを目指して情報を発信した。	従来のメールに加えてclassiやclassroomによる情報発信は有効であった。保護者はWeb ページによって学校の情報を得るため、Web 更新を頻繁に行うなど情報発信にはさらに努めていきたい。	引き続き Web ページの更新を積極的に行う。また、保護者も参加できる学校行事が再開される際には、Web ページ等を活用して情報発信を行う。
		⑭生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	B	A	B			
8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮進路通信や進路情報誌などを活用している生徒が80%以上である。	D	D	D	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う家庭学習期間中は、学級担任がオンラインでのHR活動を、各教科担任が授業配信や課題の提示・回収を行うなど、ICTを効果的に活用することができた。また、ICTを活用した各種調査やアンケートに関しては、紙面による連絡等を併用しICT活用を促進することで、保護者の利用率が徐々に向上している。欠席連絡や行事への参加申し込みをオンライン化することで業務の軽減を図ることができた。	外部評価をみると、ICTを活用している割合が増加し、保護者にもオンラインの利用が浸透しつつあると感じる。第2回学校評価アンケートの自己評価では、授業や家庭学習においてChromebookを活用している教職員の割合が、わずかに減少している。オンライン授業が行われていない期間中も、ICTを効果的に活用した授業が展開できるような工夫が必要である。	授業や家庭学習でICTを活用している教職員の割合が伸びていないため、多くの教職員が日常的に活用できるよう、教材の共有化を促進し、職員研修を通して教職員のICT活用スキルの向上を図る。また、classiを利用してない保護者に対して紙面による活用の呼びかけを継続し、ICTの利用を促進する。	
		⑯進路実現に向けた指導に満足している生徒が80%以上である。	B	B				B
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰学校のWebページやオレンジメールで学校の情報を確認している保護者が80%以上である。	A	B	B	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う家庭学習期間中は、学級担任がオンラインでのHR活動を、各教科担任が授業配信や課題の提示・回収を行うなど、ICTを効果的に活用することができた。また、ICTを活用した各種調査やアンケートに関しては、紙面による連絡等を併用しICT活用を促進することで、保護者の利用率が徐々に向上している。欠席連絡や行事への参加申し込みをオンライン化することで業務の軽減を図ることができた。	外部評価をみると、ICTを活用している割合が増加し、保護者にもオンラインの利用が浸透しつつあると感じる。第2回学校評価アンケートの自己評価では、授業や家庭学習においてChromebookを活用している教職員の割合が、わずかに減少している。オンライン授業が行われていない期間中も、ICTを効果的に活用した授業が展開できるような工夫が必要である。	授業や家庭学習でICTを活用している教職員の割合が伸びていないため、多くの教職員が日常的に活用できるよう、教材の共有化を促進し、職員研修を通して教職員のICT活用スキルの向上を図る。また、classiを利用してない保護者に対して紙面による活用の呼びかけを継続し、ICTの利用を促進する。
		⑱保護者と生徒の合同行事が年2回以上実施されていることを認識している保護者が80%以上である。	B	B	B			
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑲授業や家庭学習においてChromebookを活用する教職員の割合が80%以上である。	B	B	B	外部評価をみると、ICTを活用している割合が増加し、保護者にもオンラインの利用が浸透しつつあると感じる。第2回学校評価アンケートの自己評価では、授業や家庭学習においてChromebookを活用している教職員の割合が、わずかに減少している。オンライン授業が行われていない期間中も、ICTを効果的に活用した授業が展開できるような工夫が必要である。	授業や家庭学習でICTを活用している教職員の割合が伸びていないため、多くの教職員が日常的に活用できるよう、教材の共有化を促進し、職員研修を通して教職員のICT活用スキルの向上を図る。また、classiを利用してない保護者に対して紙面による活用の呼びかけを継続し、ICTの利用を促進する。	
		⑳ICTを活用した授業や探究学習に満足している生徒が80%以上である。	B	A	B			
11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑学校行事の出欠確認や各種調査への回答および集約が便利になったと感じている生徒・保護者・職員の割合が80%以上である。	B	B	B	外部評価をみると、ICTを活用している割合が増加し、保護者にもオンラインの利用が浸透しつつあると感じる。第2回学校評価アンケートの自己評価では、授業や家庭学習においてChromebookを活用している教職員の割合が、わずかに減少している。オンライン授業が行われていない期間中も、ICTを効果的に活用した授業が展開できるような工夫が必要である。	授業や家庭学習でICTを活用している教職員の割合が伸びていないため、多くの教職員が日常的に活用できるよう、教材の共有化を促進し、職員研修を通して教職員のICT活用スキルの向上を図る。また、classiを利用してない保護者に対して紙面による活用の呼びかけを継続し、ICTの利用を促進する。		
		㉒ICTを活用したアンケートに回答している生徒・保護者の割合が90%以上である。	D	C			D	